

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-557
研究課題名	気管支動脈の術前 3D 画像が、術中における気管支動脈の認識、温存に与える影響
研究期間	西暦 2014 年 4 月（倫理委員会承認後）～ 2014 年 12 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（術前 CT 画像データ、診療録）
上記材料の採取期間	西暦 2001 年 1 月～2012 年 12 月
意義、目的	食道切除手術において気管支動脈を損傷した場合、気管気管支の血流の低下を招き、結果呼吸器関連合併症を引き起こす原因となりうる。一方、胸腔鏡手術は、2D のモニター越しで手術を行うため、臓器や血管の前後の位置関係を把握に難渋する。術前に気管支動脈の 3D 構築画像を作成することは、執刀医が術前に動脈の走行を把握することができ安全に手術を行う上で有用と考えられるが、どの程度効果的であったかについての検討は行われていない。気管支動脈の術前 3D 構築画像がどの程度効果的であったかについて後ろ向きに比較検討を行う。
方法	2001 年から 2012 年の期間に、食道がんに対し胸腔鏡下食道切除手術を施行した方を対象に気管支動脈の 3DCT 構築画像を作成した場合、作成しなかった場合における食道切除手術術中における気管支動脈の認識率、温存率、および呼吸器関連合併症の発生頻度について後ろ向きに検討を行う。加えて、気管支動脈の走行パターンごとでの認識率、温存率の差についても検討を行う。
各データに関しましては、個人情報と切り離して使用し、個人の特定はできないようにします。	
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学移植再建内視鏡外科 丸山 祥太、宮田 剛 〒981-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学医学部 2 号館 9F TEL 022-717-7214